

子どもたちといっしょに

「どろんこハリー」

ジョン・ジオン ぶん
マーガレット・ブロイ・グレアム え
わたなべ しげお やく
(福音館書店)



お風呂に入るのが大嫌いな犬ハリー。元々は黒いぶちのある白い犬のだけれど、工事現場で遊んだり、汽車の上げるすすき浴びたり、友達と遊んだりしてすっかり真っ黒くなり、白いぶちのある黒い犬になってしまった。だから、家の人は誰もハリーに気づいてくれません。

さあ、そこでハリーは自分だと分かってもらうために何をしたでしょう。とても愛らしいハリーの行動に子どもたちも大喜びします。「どろんこハリー」のほかには「うみべのハリー」「ハリーのセーター」(福音館書店)、「ハリーのだいがかやく」(パンゲン社)があります。どれも子どもたちが大好きな絵本です。ご一緒にどうぞ!



第63回読書会

「インソップ株式会社」



井上 ひさし 著
和田 誠 絵 (中央公論新社)
日時 1月15日(日) 午後1:30~
場所 白根学習館 ルーム2
しろね図書館友の会、しろね図書館(共催)
さゆりと洋介の姉弟は夏休みの間、田舎のおばあさんの家で過ごすことになった。

父・光介は、結婚前からの妻との約束で、一日一話お話を作って語ることを習慣づけている。それは、子どもたちが田舎で過ごす時も例外ではなく、毎日手紙で送っている……はずだったのだが……。

毎日毎日おはなしを聞くと、こんなにも子どもは成長するものなのかと、小説ながら関心させられた。

とても愉快で幸せな物語で、ラストまで飽きさせません。ぜひ読んで、読書会に参加してください。

人の感想を聞くのも楽しいし、自分の知らない本をすすめてもらって嬉しい



1月の行事

7 (土)	おはなし会 3:00~
11 (水)	絵本のじかん 3:00~
14 (土)	おはなしがど例会 10:00~ おはなし会 3:00~
15 (日)	第63回読書会 1:30~
18 (水)	第33回あかちゃんがはじめてであひまん 絵本のじかん 3:00~
21 (土)	おはなし会 3:00~
25 (水)	絵本のじかん 3:00~
28 (土)	おはなしがど例会 10:00~ おはなし会 3:00~

* 降雪期、安全の為ブックバスは運休します。

初めは、難しいと思ったけど、軽い会話ができるので、ぜひ他のみなさんにも参加してもらいたい

しろね図書館だより



No. 68

発行 新潟市立白根図書館
平成18年1月1日

戌

新年おめでとうございます。昨年(しんねん)から降り(ふり)続けている雪(ゆき)で、学習館(がくしゅうかん)の周り(まわり)もすっかり雪化粧(ゆきけずり)しています。学習館(がくしゅうかん)から少し(ちひ)歩(あ)くと、白い(しろい)平野(ひら)が遠く(とほく)の山々(やま)まで続き(つづ)き、雪国(ゆきくに)でしか見(み)られない美(うつく)しい景色(けいしょく)が広(ひろ)がっています。

さて、今年(ことし)は11番(ばん)目の干支(えと)、戌(いぬ)年(ね)です。そこで、戌(いぬ)犬(いぬ)が登場(とうじょう)する本(ほん)を紹介(しょうかい)しますので、今年(ことし)の読書(よみかき)の参考(さんこう)にしてみてください。

戌年に読みたい本

- 「アングスとあひる」 マージョリー・フラック さく・え
- 「アンジュール」 カブリエル・バンサン 作
- 「いぬ」 ジョン・バーニンガム 作
- 「いぬ おこわり」 H.A.レイ え M.W.ブラウン さく
- 「犬の毛にご注意!」 メアリー・B.クリスチャン 作
- 「バスカヴィル家の犬」 コナン・ドイル 作
- 「バベルの犬」 キャロリン・パーフォースト 著
- 「ハラスのいた日々」 中野孝次 著
- 「フランダースの犬」 ウィター 作
- 「まぼろしの小さい犬」 フィリップ・ピアス 作
- 「ラスムスクン英雄になる」 リンドグリーン 作
- 「ラッグズ! ほくら(は)いつもいっしょだ」 レジョナルド・オトリー 作
- 「わたし(は)ちの島(は)で」 リンドグリーン 作

* 他にもたくさんあります!

イベント情報!!

「絵本・物語にでてくるおやつづくり」

おいしいお菓子と楽しい絵本(えほん)がみんなを待(まち)ってるよ!

日時 2月5日(日) 午後2時~4時
場所 白根学習館 食工房
募集人数 15人(先着順)(子どものみ、小学生以上)
参加費 300円(当日徴収)
持ち物 エプロン、バングナ
★つくるものは… 『ぐりとぐらのカステラ』

12月の

来館者(らいかんしや) ----- 13,925人 (視察見学(しせつけんぎゆ) 140人含(ふく)め)
貸出冊数(かだしふせんすう) ----- 14,527冊
予約件数(よやくけんすう) ----- 164件
ブックバス利用者 ----- 56人
ブックバス貸出冊数 ----- 145冊

リクエスト情報(しばらくおまち下さい)

1位 東京タワー (9名)
2位 告白 生協(せいけい)の白石(しろいし)さん (5名)
4位 1リットルの涙 電車男(でんしゃおとこ) (4名)
他

～ 図書館員がおすすめるこの一冊 ～

『夜中に犬に起こった奇妙な事件』

マーク・ハットン 作 小尾美佐訳／早川書房（933ハ）

この本は、主人公の15歳の少年クリストファーが書いた「ミステリ小説」です。彼は数学や物理が大好きで本の章が1、2、3という基数ではなく、2、3、5というような素数を使っています。その為、私は読み飛ばしたかと思って何度もページをめくってしまいました。

クリストファーは自閉症です。話はクリストファーの考え方、目に映す風景や世界観で構成されています。彼は嘘がつけません、本当のことしか言えません。情報過多で混乱し、パニックになる。触られる事を嫌がり、それでも抱こうとすれば暴力をふるいます。もちろん、それは親であっても同じなのです。手の指を扇のように広げ触れ合わせる事だけが唯一の愛情表現なのです。彼は気持ちを落ち着かせるために、素数や倍数のことを考えたり、二次方程式を解いたりします。

所々でそんな話や方程式がでてくるのでその素晴らしい知識や数式に圧倒され、私はどんな話をしていたのかとさまよってしまいました。それだけ彼の、彼らともいえる世界は複雑なのです。その「世界」を感じる事、知る事がわずかでもできる事がこの本の素晴らしいさだと思います。それは想像をはるかに超えているので「クリストファーの世界」がこんな風に見える、こんなにも多くの障害があるのかとリアルに私たちは感じさせられるのではないのでしょうか。

話は大きく展開しクリストファーは試練を乗り越え多くを学びます。すべてクリストファーが感じたままが書かれているので、その理屈がとても面白くもあるのですが、この奇妙な感じは、読んでみなければとてもわかるものではありません。

養護学校に通うクリストファーが先生にすすめられ、犬が殺されるということがきっかけとなって大好きな名探偵シャーロック・ホームズから「ミステリ小説」を書いたものです。ミステリ以外にもクリストファーを囲む周りの大人たちやクリストファー自身の成長など、数学のように証明しきれない人間の複雑さを観察しながらお楽しみください。

【司書 大野恵子】



第六十二回 読書会

平成十七年十二月十八日（日）
午後一時三十分～三時三十分

『床下の小人たち』

（岩波書店）

メアリー・ノートン

林 容吉 訳 作



昔、イギリスの古風な家の床下で、ポッド・ホミリー・アリエッティ親子三人の小人たちが暮らしていました。小人は人間に姿を見せないようにしながら、人間のものを「借りて」生活する『借り暮らし』をしています。ところが、その家に男の子が来たことで三人の暮らしが変わっていきます……

◆◆◆ 参加者感想 ◆◆◆
○他のファンタジーよりも身近に感じること

とができた。人形の家の小さいセットも見たことがあるし、本人（小人）は「妖精じゃない」と言うが、もしかしたらいるかもしれない、と感じることができた。小人たちが「魔力」を持たないというのも身近に感じられた原因かもしれない。○ホミリーが面白い。だんなさん（ポッド）が「もう（借りに）行きたくない」といつているのに「あれもいる。これも欲しい」という。人間と同じ。本当にこういう人はいそう。

○表紙や挿絵で想像できて確かめられたから、絵本ではないが絵をみて楽しめた。○借りて暮らす、といっても返す気はないらしい。そういう意味では、私たちが「借り暮らし」をしているのかも。生活のために動物などの命をもらったりしている。

○小人は自分たちのために人間がいると思っっている。人間の目から見た世界（宇宙）もそんなものではないか。○男の子が小人たちにいる運んでくられて黄金の時期があるけど、その後は何かあるんだよ、という警鐘でもあるのでは。今の時代もそういう気がする。

○作者は、役所勤めをしたり女優になったりもしている。作家にかかる税金が軽い

からという理由で引越したりしているようだ。すごい人だ。

○何冊かシリーズがあるが、作者が亡くなる十年前の最後の作品が「小人たちの新しい家」。何か伝えたいことがあって書いたのだろう。

○最後に、小人がいた証拠になるアリエッティが書いたと思われる文字と、男の子の文字のクセが同じだったことで、小人のことは男の子が言ったデタラメかも？と思わせるようになっていく。でも、アリエッティが男の子に文字を教えたからそうなったのかも考えれば、本当に小人はいたとも思える。どちらとも言い切れない。読む人の想像にまかせているところがいい。

* 次回の読書会は
* 井上ひさし著「イソップ株式会社」
* 一月十五日（日） ルーム2
* 午後一時三十分～三時三十分

（内山 香）